

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600230		
法人名	株式会社 サカイ		
事業所名	グループホーム あじさい「小杖」1階		
所在地	〒483-8412 江南市小杖町寺之内114番地		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osyoCd=2393600230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osyoCd=2393600230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和3年2月23日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあじさいの理念である、「いろとりどりのあじさいのようにその人らしく」認知症高齢者が安心して暮らし、生きる喜びを実感していただき、「その人らしく最後まで」を支援していきます。

ご利用者様にとって『もう一つの我が家』と思って頂ける環境を作り、そして、地域の人々が将来にわたり、安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護に関する質の向上と後継者の育成に力を注ぎます。

毎朝の散歩を日課とし、季節を感じていただき、体力の維持に取り組んでいます。また食事作り、洗濯物干しやたたみなど、ご利用者様のペースと一緒にさせていただいています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、新規開設の事業所ではあるが、運営法人で複数のグループホームと小規模多機能事業所を運営していることや、当ホームの管理者についても関連事業所の管理者を経験してから異動していることで、大きな混乱もなく運営が行われている。今年度は、感染症問題が起きたことで地域の方との交流が困難な状況下での事業の開始になっているが、ホームからの働きかけを行い、地域の方の理解と協力を得ながら、徐々に関係が深まっている段階である。併設事業所内に、地域の方との交流を目的とした「地域交流スペース」を設けており、感染症問題が落ち着いた際には、交流スペースの活用を考えている段階である。また、職員の資質向上に関する取り組みについても、運営法人全体で職員研修が行われており、未経験の職員に対しての教育及び訓練の取り組みが行われている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	新型コロナウイルスの影響で実践ほどは出来てないが理解は研修など行われており共有できていると思われる。共有はしているが実践の為の行動は不十分と考えられる。管理者の指導の下、実践できる様努力している。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、職員間で理念を唱和し、共有する取り組みが行われている。また、ホームでも理念をつくる取り組みを行い、職員間での実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの関係もあり、なかなか地域の方々と交流が無いが、毎朝の散歩した時にお会いした際挨拶をかわしている。その積み重ねで、切りお花をいただけたり、実った果物などいただける機会もあった。	ホーム開設時から、感染症問題が起きたことで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームからの働きかけも行いながら、地域の方に事業所の駐車場を活用してもらおう等、現状で可能な交流が行われている。	事業所内に交流スペースを設ける等、地域の方との交流については、前向きな方針でもある。今後の感染症の状況をみながら、地域の方との関係が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自分では行っているつもりであるが、地域で反映されているかは定かではない。新型コロナウイルスの影響もあり、地域の方と接する機会が少なく、出来ているとは思えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通して話し合いをしてはいるが、職員全員には行き届いていないと思われる。経験の差もあるが本人の勤務に対する意識不足もあり出来ていない職員もいると思われる。	今年度は、感染症の状況をみながら会議の開催が行われており、開設初年度でもあり、会議を開催した際には多くの方の参加が得られ、出席者に事業所を知ってもらう機会にもつながっている。また、書面による事業所全体の報告も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者やケアマネからは聞いているので出来ていると思うが、スタッフは市町村の担当者と接する機会が無くよくわからない。	市内に運営法人の関連事業所が開設されていることで、市担当部署との情報交換にもつながっている。また、地域包括支援センターとも、併設事業所を通じた情報交換が行われており、困難事例等、関係部署との連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が出来ているとは思わない。「束縛している」と理解していない職員もいる為お互いに注意をしようとしている。研修を通じて勉強しスタッフ同士で「これは拘束に当たるのではないかと」気を付けている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動できるように支援が行われている。また、運営法人全体で身体拘束に関する検討会議の取り組みや定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止については研修もあり、学びスタッフ同士注意し合っている。気づかずに不適切ケアを行っているときもあり、職員本位になってしまったこともあったが勉強会など参加して防止に努めている。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	未経験の職員やキャリアの未熟な職員も多い。学ぶ機会や活用はまだなかったと思われ難R。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	判る範囲での対応を務めている。代表や管理者が行っており、あまり把握はしていない。解約時等の理由対応などの情報は共有されているが口頭で回ってくる部分であり、把握できていないスタッフもいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の要望等はメモを取り伝えるように心がけている。申し送りノート等でご家族様やご利用者様の意見を共有できるようにしているが口頭のみでぬげがある。ご利用者様には代弁者としてご家族様には速やかな対応が出来るようにしている。	今年度は、感染症問題があることで家族との交流が困難になっているが、関連事業所では行事等を通じた家族との交流が行われている。家族からの要望等には、運営法人でも対応が行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	感染症問題が起きたことで、家族との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の状況もみながら、家族との交流会等の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議があるときに伝えている。管理者は話を聞く時間をとってくださる方だと思う。開設のバタバタで反映に至らないことやそのままになっていることもあり、今後反映してほしいこともある。職員の人数配置に関しては配慮して反映してくれている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換を行いながら、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人にも報告し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による定期的な職員面談が行われており、一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	開設して一年未満なのでこれからだと思う。スタッフにより負担が大きくなっている。残業の無いスタッフでも休憩をとりにくく、不満は聞かれる。管理者が職員の思いを組んだシフトをしっかり組んで環境を整えてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等の機会は多く確保されていると思う。新人以外の新しくトレーニングできる機会が少ない。実践されているが夜勤等がありレベルアップがなかなかできない。研修を受ける機会は確保されている。研修は定期的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の施設との交流はほとんどない。同業者との交流の機会は新型コロナウイルスの影響もあり、無いと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	傾聴に努め意見をくみ取り代弁者になるべく努力している。他のスタッフが聞いたご利用者様の話等は申し送りノートで共有できていると思われる。ご利用者様の要望を確認し情報共有に努めている。カンファレンスが行われている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様のご要望や意見があればスタッフが共有し意向に沿えるように努力している。利用者様ご家族様の要望を確認し信頼関係が築けるよう努力している。見学や契約時等にしっかり時間が取れているので関係づくりに努めていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者やケアマネとご家族様との話は分からないが、必要とされる病院や他の施設に移られているので出来ていると思われる。本人様ご家族様の要望を確認している。努められていると思われる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	会話を通じて寄り添うように心がけている。人生の大先輩として尊敬し教えていただいと考えている。日々の家事等一緒に行っているが同じご利用者様に集中してしまう。。出来ている職員、出来ている職員がいるがほぼ出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とのお話の中で真意をくみ取り関係を密にするよう努力している。しかし、新型コロナウイルスの感染予防や勤務時間帯に左右されるため一部の職員以外は家族交流が少なく、全体での関係は築けていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの感染予防のため行っていない。ご家族様以外の方との交流は現在では難しいと思う。これまでの人生や価値観を大切にしたいと考えている。ご利用者様の中で人となりを熟知するよう努力し反映したいと考える。	現状、外部の方との交流は困難であるが、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、現状で可能な交流が行われている。また、家族との話し合い等を行いながら、身内の方の月命日に出かけている方もからあり、関係継続につながる支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が交流を持てるようにしている。ご利用者様同士が不快な思いをしないように配慮、会話の間に入るなど気を付けることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	スタートしたばかりなのでわからない。サービスを終了した方とお会いできていないので実践できているかわからない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人と会話して把握をしようとしている。利用者がどんな暮らしを望まれているか傾聴し実現できるように努めている。	毎月の便りの作成等を通じて、職員が把握した利用者に関する情報を利用者毎のノートにも記録を残し、職員間での情報の共有につなげている。また、カンファレンスも行われており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報用紙を見て今までの生活歴を把握し今後につなげていく。利用者様から今までに使っている家具を持ってきていただいている。アセスメントシートなどを活用し確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	まだ把握しきれないところがあり心身状況は日々の変化を見逃さないように努めている。現状の把握はノートに記載されていないと把握するのは難しい。また、全職員ができていないか不安がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ同士・管理者に意見を聞き行っている。状況や状態に応じて話し合ったことをケアプランに組み込んだりできている。ケアマネから意見を聞かれることもあるので反映されている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた対応が行われている。利用者毎に介護計画に関するチェック記録を残しながら、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子のケアに対してスタッフ間で見直しができる場所は出来ていると思う。記録できているときもあるが出来ていないこともあり申し送りで聞いた内容がどこにも記載されていないこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出は出来ない状況なので屋内のレクリエーションに取り組んでいる。ニーズに応じて臨機応変に取り組もうとしているが出来ていないことも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ過でできる事が限られている面もあり不自由な思いもさせている。できる範囲内で楽しめるよう努めることはできていると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診ができるようご子家族とも連携している。受診がある日までには本人の希望を聞くようにしている。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状は利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。受診についても、状況にも合わせてホーム職員による対応も行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の気づきをこまめに報告記録に残している。気づいたことを口頭及び記録で看護職に相談できている。看護職もそれぞれの状況を把握できるように努めて下さっている。毎日の生活の中での小さな違和感は報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との直接交流をスタッフは行ってないためわからない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	まだそこまでの話や議題がないため、聞かされていない。まだ始まったばかりの施設なのでしっかり聞いたことが無いもしくはわかりません。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるように支援が行われており、利用者の段階に合わせた対応が行われている。利用者や家族の中には、ホームでの看取り希望の方もあり、協力医との連携を含めた支援体制がつけられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修はあったが新人職員が身につけていないと思われる。知識や経験のない職員もいる為全員が実践できているとは思われない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は一度受けているがしっかり身につけているとはいえない。避難時のマニュアルにのっとり管理者から指導はあった。定期的な確認ができていない職員もおり参加していた職員も忘れてしまっている。	災害対策については、運営法人全体で行われており、火災、地震、水害を想定した取り組みが行われている。夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。また、併設事業所と合わせて水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	感染症問題が起きたことで、地域の方との協力関係の取り組みについても、困難な状況になっている。今後の感染症の状況もみながら、地域の方との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人に対しては気を配れていてもスタッフ同士は不十分。他方に聞こえるところで報告等していることがある。	基本理念の他にも、運営法人の専門の委員会を通じた、職員の接遇に関するスローガンを日常的に職員間で振り返る機会がつくられており、管理者からの注意喚起にもつながっている。また、職員の接遇に関する研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の自己決定出来るような声掛けに努めている。希望がなかなか実現できなかったり聞けない場合もあるが出来ることからしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務に追われて希望に添えないことも多い。できる事から実際にやっている。レクリエーションなど強制することが無いよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	気温や体調に関しては気を配れているがオシャレについては不十分。こちらからもっと働きかけたほうが良いと思う。入浴時に着替えは本人様に選んでいただく等比較的出来ていると思われる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食食事の準備と片付けを一緒に行っていたり心掛けている。メニューを考える時にご利用者様にどんなメニューが良いか聞いたりしている。	メニューを利用者にも希望等を確認しながら考え、利用者もできることに参加しながら調理が行われている。おやつ作りや季節等に合わせた食事作りも行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全部ではないが支援できるように努めている。利用者様に合わせた食事量や形態で提供している。バランスのとれた食事になるように努めている。ほぼ出来ているが利用者様の活動量で水分補給が少ない時もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行っている。ご自身で行っていただくが十分でない方もいる。可能な限り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックをしてこまめに声掛けを出来ていないことがある。支援についても職員によって対応が違うことが多い。オムツの使用量排泄記録をもとに情報収集をしている。	排泄の記録用紙や利用者毎のノート等に残り、職員間での共有につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、利用者の中には布パンツに移行する等、排泄状態の改善に取り組んでいる。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の際は、冷たい牛乳をすすめたり、繊維の多い食品を提供したりと比較的取り組んでいる。また看護職に報告したりしている。内服や運動量、水分量を看護職に相談しながら行う意識を持つようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	最低2～3日に一度は入浴していただけるように声掛けを行っている。拒否された場合は時間帯や日にちを変更し対応している。一人一人の希望を聞いて入浴を決定している。	利用者が週2～3日の入浴ができるように、時間も午前と午後に対応する等、入浴を拒む方等、一人ひとりに合わせた支援が行われている。また、利用者の身体状態に合わせた支援や季節等に合わせた柑橘類を入れた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、休憩されたい方は自室で休んでいただいている。身体状況を看護職に相談し必要があれば自室で休んでいただいている。夜間入眠ができるように昼間レクリエーションや散歩などに参加していただけるように声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい内服は副作用に気を付けているが全員全部の内服を理解しているわけではない。できている職員と新しい職員ではできていない職員との差はある。内服について理解できていない職員もいる。内服の内容を把握するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	新型コロナウイルスの感染予防のため、ソーシャルディスタンスを保つことを大切にしている。それがために手が足りずむづかしい場合が多い。可能な限り、ご利用者の散歩も少数で行うな出来る範囲でおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスのため難しいことが多いが、近くの散歩などは毎日積極的に取り組んでいる。外出は現在の状況では困難。自己主張の強い方などは要望に寄り添うようにしているが言葉の少ない方は後回しになりがちである。しかし、できる範囲で希望に沿うように努力している。	感染症問題があることで利用者の外出が困難になっているが、日常的にホーム周辺の散歩に出かける等、現状で可能な取り組みが行われている。また、感染症の状況もみながら、市内の公園や初詣等に出かける外出も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使う支援は行えていない。新型コロナウイルス感染予防のため買い物などに行ってはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様ご家族様の希望に沿って可能な限り支援ができています。なかなかできていないこともあり、携帯電話を所持していただいている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の場、特にフロアにはレクリエーションで作成した季節の物と飾りを張り出している。整理整頓することで事故なども未然防止になる為快適な空間になるように努力している。トイレ等などは見てわかるように工夫をしている。	ホーム内は広めの空間が確保されており、リビングにソファや畳コーナーもあり、利用者の毎日の生活をゆったりと過ごすことができる生活環境が整えられている。また、利用者の作品等を飾り、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの席の配慮・状況によって畳コーナーに案内したりできている。食事席の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人に確認をしながら居室の整理をしている。持っている家具や思い出のある写真などを持参していただいている。できていない方がいらっしゃる。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせて、入居前からの使い慣れた家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、趣味の本等を持ち込んでいる方やベッド以外で生活している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの扉の表示や歩きやすいように机の間隔をとる。まだできる事があると思うが今は配慮できていないことが多い。リスク管理には気を付けているが全職員の共有意識を持ってもらえるように努力している。		